

第3回青森県生涯学習審議会会議録

日時	平成25年5月29日(水) 14:00~16:30
場所	青森県庁北棟2階A会議室
出席者	<p>《 委員 》 敬称略 14名 (欠席1名)</p> <p>太田 博之 野呂 徳治 浮木 隆 斉藤 雅美 境 香織 佐藤 江里子 澁谷 尚子 田頭 順子 中上 千壽子 原 英輔 小笠原 彩子 三上 雅通 山上 恵子 横内 清信 (工藤秀美)</p> <p>《青森県教育長》 橋本 都</p> <p>《 事務局 》 5名</p> <p>中野 聖子 (生涯学習課長) 中嶋 豊 (学校地域連携推進監) 渡部 靖之 (企画振興グループマネージャー) 他2名</p> <p>《 その他 》 3名</p> <p>伊藤 直樹 (学校教育課 学校教育企画監) 大瀬 雅生 (総合学校教育センター教育活動支援課長) 他1名</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 案 件 (1) 学ぶ意欲を高めるための要因について (2) 聞き取り調査について ア 対象者選定 イ 項目の設定 (3) その他</p> <p>4 課長挨拶</p> <p>5 閉 会</p>
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 (1-1・1-2) 第2回審議会における意見の整理</p> <p>資料2 聞き取り調査について</p> <p>資料3 今後の予定</p> <p>参考資料① 第2期教育振興基本計画(答申)</p> <p>参考資料② 平成25年度青森県の社会教育行政</p> <p>参考資料③ 青森県総合社会教育センター要覧</p> <p>参考資料④ 公民館機能活性化事業キックオフフォーラム</p> <p>参考資料⑤ 公民館の力活用プランナー講座</p>

記号：◆委員 ○事務局

(案件外) 第11期審議テーマについて

- ◆ 第2回審議会において、今期の審議テーマは「学びと社会参加を通じた人財育成の方策について－「学びの種」を拾う－」とすることとし、今後修正意見があれば、その都度審議することにしていました。
- ◆ この審議会では、いかに学びや社会参加に県民が関わってもらえるかが主題であり、審議会のテーマの中に、県の施策にも載っている、「人財育成」という言葉が入っていると、やや縁遠い感がある。もう少し身近な言葉にしてはどうか。「人づくり」とか、あるいはもっと何かよい言葉があると思うので、持ち帰っていただいて、お考えいただきたい。

(1) 学ぶ意欲を高めるための要因について

- 資料1-1及び1-2に基づき、説明。
- ◆ 前回の審議会でお聞きした「感動」できることならば、外的・内的要因のどちらとも言えないこともあると思う。例えば、すごく仕事が忙しい人でも、日曜日は早起きして釣りに行ったりする。リフレッシュできるものとしての学びや社会参加活動と捉えることもできると思う。農業体験をするサポーターズクラブでは、家族で植え付けから収穫、後片付けまで体験し、農業の実態を知ってもらえる活動があり、たくさんの応募がある。導入の部分で興味がある情報を、いかに提供できるかが課題である。この組織では、もうひとつの効果として、学んだ人が組織の中で指導側に回ったり、次の組織を運営する主体になったりして、次の組織を立ち上げられるような人が育ってくれている。
- ◆ すごくいい講座があったとしても、講座を提供する側が、講座内容に合っていないなければならない。例えば、カフェでカメラ講座があるとか、豆本作りの講座や革細工の講座があったりするのだが、オシャレな講座をオシャレな場所でやると、オシャレな人が集まってくる。提供できる場所に合った講座内容があると思うし、キーマンになる人と内容と場所はセットで考えなければならないと思う。
- ◆ 誘い方というのもあると思う。勧誘の仕方も、何かミステリアスな部分があったり、もしかしたら楽しそうだなと思わせるようなことがあっても面白いと思う。
- ◆ 告知の仕方や「こういうことやってるんですよ」というのが、インターネットやフェイスブック等で見えるようになってきている。会議や講座の様子の写真によって、印象は随分違って来るし、楽しそうな活動の写真は視覚による効果によって、勧誘にもつながると思う。
- ◆ 廃校活用事業として、5年前から旧王余魚沢小学校を借用し活動をしている。かつて小学校は地域コミュニティの中心であり、廃校によってその場が失われたことから、廃校の活用法を考え、地域コミュニティの再生を目指している。「かれいざわアート ICHIBA」というアートイベントでは、「りんご箱市場」に、プロアマ問わず多くの方が出店しており、クラフト・野菜・菓子・似顔絵・歌など多様なジャンルの店が混在し、出店者同士、またはお客様同士など様々なコミュニケーションが生まれている。この王余魚沢小学校で一昨年前からカフェを営業しており、現在当法人の自主事業

として行っている。このカフェに二人の方がボランティアでお手伝いに来てくれている。お二人とも普段は事務員・学生で、以前から憧れていたカフェの仕事をやってみたくて参加したそうだ。その様子はとても生き生きと楽しそうであり、何か学びの種のようなものを感じる。

また、廃校活用のイベントには家族連れが多く訪れることから、付近に借りた森林公園で、サンショウウオの観察会なども行っている。そこに集まった人の中には「森を歩きやすく整備したい」と、木の伐採や整備のボランティアに参加してくれた方もいた。

座学だけが学ぶ場ではなく、人と人のコミュニケーションや様々な体験自体が学習の場になるのだと感じた。

- ◆ コミュニケーションによってコミュニティが広がり、いろいろな人が集まることでアイデアが次々とつながっていく。素晴らしいことだと思う。前回、外的要因の話の場面でも出たが、「りんご箱市場」というタイトルなんかは、すごく興味を引く。これは、内的要因にすごく響く。一つの言葉自体も地元に適した形があるし、いろいろな人が集まることにより、こういう言葉が生まれるんだと思う。
- ◆ 公民館は、一地区におけるコミュニティの場や学ぶ場として存在しているだろう。皆さんの話を聞くと、地域のくくりでの活動というのは、なくしてもいいのではないか。例えば、「カフェを開きたい」と発信すれば、他県からでも応募者がある。もう地域という概念はなくなってきていると感じるし、「青森県民」という枠も取り払わないと感ずることもある。なおかつ、そうすることによって、「へえ、こんないい所があるんだ」と地域の人が気づく。公民館も地域にあるものと考えてのではなく、そこに集まる人に対してあるのであって、そこでの学びは、県とか市とか、地域のタガは外した方がいいと思う。
- ◆ 人づくりの中で、一人一人のスキルを上げていく中で最終的には「個」ではなく、コミュニティにフィードバックされて、それ自体がエリア限定ではなく、もっとグローバルに地域間や世代間を越えていくとすると、公民館はその地区のものという考え方ではなくて、抜本的にその地域を良くしていこうとする講座や出会いの場を活用すると考えることもできるが、そうなっていないものも多い。対象を絞りすぎるのもよくない。
- ◆ 講座にどう導くか。この審議会が求めるゴールをどう考えるのかというと、どういうさせ方をし、どういう場所でやって、どういう風にうまく参加させるかを考えるのか、そこで学んでもらえば良しとするのか、もし、もう一段高い、学習から実践、実践から学習というところまで持って行くのであれば、「人財育成」という言葉でもいいと思う。参加させ、なおかつ、どの程度のゴールを目指した学習をしていけばいいのか、そこで、いろんな大小の講座があつて、どここの講演会や研修会があつて、そこに参加した人数だけを競うようなものではないかという時代なのではないかと思っていて、だとすればどうなのかということ、ここの場で話し合うものだと考えている。今日の「内的要因」についての話は、何をゴールとして求めるか、興味があるから勉強する、問題意識を持ったから勉強するということもあるだろうし、学習を経てどこに到達したいのかということを考えていくことが、講座やイベントが意味を持って行くことにつながると思うので、その方向性でも考えていただきたい。
- ◆ 評価の指標が参加人数でしかされていない。参加者がどう育ってくれたのか、運営

側や仕掛け側が意図したゴールに到達したのか。我々の話し合いの根底の部分をし、しっかり整理しなければならない。

外的要因と内的要因は対象者によってそれぞれ違うと思う。たとえば障害を持った方が生涯学習に参加することとした時、それぞれの要因は違いますよね。生活保護を受けてる方々にとっても学びの種を拾うのに、いろいろ問題がある。そういう意味で言うと、若い女性の社会参加がどんどん増えてきているのに、子どもがいて学習ができない場合もある。公民館や公会堂には託児所が併設され、講演会の間、子どもを見てもらえるというのがあれば、多分参加もしやすいだろう。ということになると、ある程度、ゴールを目指す一人一人の生活環境、夜勤の人もいるだろうし、ある程度対象者を絞って、その対象者が一体何を求めているのか、一つ一つ考えていく必要がある。万人向けにばかりだけだと、障害のある人は出られなかったりするとさびしい思いをするだろう。

次の審議テーマは「対象者を絞る」作業で、こちらを先に話したいと思う。

(2) 聞き取り調査について (対象者選定・項目の設定)

○ 資料2に基づき、説明。

◆ あの人はどうやって学んでいるのか、どうやって人集めしているのか、県や市町村が把握していない、生涯学習・社会教育の現場を、我々が我々の人脈で掘り起こしていき、その中から外的・内的あるいは対象者にこちらから投げかけてやってみてはどうか。成功者の中でも、これまでなかなか話を聞けないでいる人がいると思うので、一歩踏み込んで、みんなでヒヤリングを行い、情報交換をしたい。

◆ (聞き取りに関するのではなく、要因についてだが) 大人になってからだけではなく、公民館の講座は小さい子や小学生向けの講座があるが、中学生や高校生向けの講座がないし、成人向けも少なく、高齢者にならないと、ないのが現状。小さい子があって、中高生や若者向けが少なく、学びが途切れてしまっている。年齢で途切れない、トータルで考えた、公民館活動の中でも人財育成があればよいと思う。

夕方から仕事の後に学びたい場合、近所にある公民館というのは有効な場であるし重要性を感じる。

自分が就いた職業ではないものでも、実はやってみたいことがあったということもあると思う。それを公民館の講座とかでできるような啓発活動があってもいいと思う。

また、軽い感じで参加できる学びの場がほしいと思う。

◆ 以前、生涯学習の対象は誰なのか、極端な話で乳幼児や胎児も対象とするのか、といった話が出たことがあるが、それでは広すぎるので、就学後を対象とした経緯がある。しかし、小学生などに重心が置かれてしまったことで、若い世代の人のコミュニケーション能力が欠けていたり、生涯学習活動への参加率も悪いと思う。ただ、調査したデータベースはないが、中高生をターゲットとして絞ることも大事だと思う。

この審議会では、「学ぶ意欲」を高めるためとしているが、「学び合う意欲」という考えでもいいのではないか。生涯学習・社会教育とは、お互いが学び合う、それは子どもと一緒に学ぶ、おじいさんおばあさんと一緒に学ぶというような、同年代だけではなく、人と関わり合うというヒントになった。

◆ 「学習すること」が目的ではなく、「学んだことを生かす」方向にした。学んで終わるのではなく、「生かす」、自分のこととして内にとっておくだけではなく、他の人にも広めてほしいと思い、学びの経験者を講師に仕立てた。

地域の協力団体などが地域を活性化させるために地域伝統の踊りの講習から始め、地域づくりになった。また若い人たちは近所の清掃活動から始まって、小さい子たちを入れたイベントに発展した。

若い人たちに社会経験がなくて驚いている。例えば方言についていけないとか。いかに若い人たちが「学んでいく」か、経験をした人たちは「実践したことをどう生かすか」、聞き取り調査のほかに、委員本人の実体験も話してもらおうと、良い材料になると思う。

- ◆ P T Aは各地での研修会とかも頻繁に行われており、いろいろな方を呼んで講演を聞いても、そこで終わってしまっている。聞いて感動したことを広めることも難しいことだと思う。いろいろな人に一緒に参加してほしいと思っているが、声掛けしても忙しい人が多いので、結局いつも同じメンバーになってしまい、いつもこういう話をしている。

ホームページの活用を考えており、イベント案内や実施後の記事を充実させていきたいと思っている。P Rは続けていきたいと思っているが、メンバーが入れ替わる時に引き継いでいくことで、人づくりにもなっていくと思うし、新しい意見も入っていくのだと思う。

聞き取り調査は、お一人お一人にお話を伺うのか。それとも、アンケート方式なのか。

- ◆ まだ決定ではない。今の段階では、例えばある団体から話を聞きたいとなれば、全員でそこに行くのではなく、誰か担当を一人つけてやればいいのかなど、漠然と考えていたが、それはこれからの話し合いで決めていきたいと思う。

P T Aの経験から言うと、P T Aの活動に参加するようになってから社会参加活動も増えたり、社会教育に行く人も多いたと感じるようになった。

聞き取り調査の対象については、ネットワークやコミュニティを持っている人に話を聞いてほしいと思っている。聞き取りの担当者は、忙しい中話を聞きに行き、内容をまとめ、発表となれば大変だろうし、たとえば対象者を紹介してもらおうとか、委員会名で文書によるアンケート調査をして次回までにまとめるとか、会議に呼んで話を聞くとか、やり方はいくつかあると思う。これから決めましょう。

- ◆ 内的要因の話になるが、小学校では「学んで行こうとする力、学ぼうとする力」を教えている。将来、社会に出た、あるいはいろんな場面で生涯学習につながっていく力になるのではないかと。直接小学校で生涯学習をやっているわけではないが、力をつけさせてあげているのだという見方をしてほしい。「学び続けていく力」という考え方が生涯学習では大きいと思う。原動力は「その気にさせる、やる気を出させる」ことで、そのためには1つの手法として、柔らかい雰囲気というものがほしい。お茶飲みながらやる講座もいいと思う。ただ、しっかりしたテーマ設定が必要であり、またネーミングも大事だと思う。ちょっとしたきっかけさえあれば、出たいと思っている人も多いと思う。自分が知っている人を個別に誘ってみたり、講座の担当者が個別に案内をするとか、一般万人向けではなく対象を絞って勧誘すると、参加させることができると思う。1回目出た時に楽しいと思ってもらえる「感動」があればいいと思う。

P T A活動で参加した人が、さらにそこからいろんな活動をしている。最初は嫌だったけど、やってみたら楽しかった、勉強になったと言う。そこに「カギ」があるのではと思う。

地域の女性グループは、自分たちで加工食品を作って道の駅に出していて、コミュ

ニティビジネスのようなことをしている。こういう方々も聞き取り調査の対象になるのではないかと思う。

◆ 生涯学習課ではプラットフォーム事業をやっているが、今まで学校に縁のなかった会社の人が学校に行き、自らの生業について話してくると、次から次でその気になってくれる。会社の社長さんも従業員の方も、行ってみたら、学び合うことで「人生変わった」ぐらいの喜びをもらっていて、WinWinの関係になっている。学校に関わることによって、生徒のためにもなるし、話をする側も子どもたちから教えてもらったり、感動をもらったりしている。まさに「生涯学習」になっていると思う。学校を核としたコミュニティも、キーになるのではないかと思う。

◆ お話を聞いていて、「柔軟、やる気、可能性、居場所」がキーワードではないかと感じた。

生涯学習にはたくさんの可能性があると思う。難しいと思われたり、経済効果が出るのかとか、人員や予算がどんどん削られるが、大事な基盤であると思っていて、学ぶことからいろんな人の可能性とかでできることが増えてくると思う。

知りたい、会いたい、しかしチャンスが分からない。活動しているいろんな人に会いたいが、そのチャンスがない。もっと勉強したいし、青森県のために役に立てることができないかと思うが、どんなに働きかけても限界がある。でも、いろんな取り組みをしている方の所には情報が集まってくるが、情報は集まるところと、求めているのに集まってこない所の格差がある。そういった問題に取り組んでみるのも面白いと思う。

生涯学習をユニークなビジネスと捉えてみてはどうか。インキュベーション・マネージャーに学ばせてもらったことがある。生涯学習を通じて、何か経済効果につながるような活動ができて、人が活性化することがないか相談させていただいたことがあるが、「居場所」を作る、情報が集まる場所をわかりやすくする。名刺がないとどこにも行きづらい環境だが、そうではなく、誰もが何かができる存在なんだという自信を生涯学習から得られるようなシステム作りが必要だと思う。

◆ 一歩踏み出すというのは、相当な勇気が必要。誰かに誘ってもらったり、面白そうだと思えば行くかもしれないが、内的な部分である勇気、それが出せるような、気軽に行けるような場所というのが必要ではないか。

◆ 生涯学習というのはとても広くて幅もあり、どこに注目したらいいか迷っていたが、今日の配付物の中に中教審の資料があって、2枚目の下に「大震災からの復旧・復興支援」と書かれているが、すごく小さな字で寂しいなと思った。確かに、県のものではなく文部科学省の資料だと確認したが、我々は被災地に住民者として、震災復興の意識はまだまだ持っていないかならなれないと思いたい。

震災のことだけではなく、県財政の厳しさとか、少子高齢化とか、若者が減って県外へ流出している現状を踏まえると、学校教育も、生涯学習も、家庭教育も、それらすべて込みで、小さい時から青森の良さを育てていっている地域はいいと思っていて、地域の祭りに高校生が積極的に関わり、参加している所などいいと思う。

県独自の危機的状況を回避する策が必要で、資料に「絆づくりとコミュニティの形成」とあるが、孤立している人がいないか気になっている。

今日は話を聞いて、すごく活動していることも分かってきたが、いろんなレベルの人がいるし、さらにレベルアップを目指すとか、これからのリーダー的存在になる人とか、ぜひ仕掛け作りが必要だと思うが、絆が細いとか薄いとか、生きる意欲が弱い

人の所に視点をあてた掘り起こしというか、種を拾うような、一步を踏み出せていないような人の所に声かけしたり整えてあげたりすれば、元気を出してもらえるかなと思っている。知恵を出し合って、工夫して、誘い合って、例えば車がなくても公民館に来れるように迎えに行くよ、というような工夫ができないかなと思っている。もちろん、いまレベルが高くて、さらに切れないようにとか、もっともっと活性化とか必要だが、そうでない、一步踏み出せない人の所にも何かできないものか。

- ◆ まさに人づくりは国づくり、街づくりで、生涯学習がうまくいってる県とそうでない県の事業の遂行によっては、5年10年すると県民力、市民力にどんどん差が出てきて、それが子どもたちにも影響したりする部分があるのかなと思ひ、この審議会の重要性も改めて感じたところである。

震災があつて、自分の生き方とか、人生とか、命の大切さとか、我々は再度見直すきっかけになった。そういう意味では、この審議会の提言のなかには、絆や人とのかわりも当然絡んでくると思っている。

さて、ひと通り意見は出たと思うが、聞き取りについてはどうか。

- ◆ ぜひ聞きに行ってみたい所があるのだが、生涯学習をビジネスにしているところで、例えばNHK文化センターがあるが、どういう動きがあり、どういう年齢層が来ていて、どういう形で進んでいるのか聞いて、そこからこぼれる人たち、つまりはどんな人が来ないのか調べてみたい。

- ◆ 対象として見るというのも頭に置いてほしい。例えば、生涯学習の会場に行ってみたら、そこには車イス用のトイレがなかった場合、主催者の都合ばかりで設備のないところを使っているのだとしたら、「車イスの人は来るな」と思われてしまうことがあるかもしれない。車イス利用者の中には、「私はこの講座の対象に入っていないんだ」と思っているかもしれない。

普段から近くにいてケアしている人たちに「実はこういう会場だったら行きやすいですよ」という話が、たぶん聞けるのではないか。福祉の担当者だけではなくて、生涯学習の提供者としても提言していくことは大事ではないかと思う。

- ◆ 聞き取り調査というのは、気になる対象者をいくつかヒアリングして、それを総合的にまとめるという考えで良いのか。

- ◆ そうしようと思つています。その分野分野を、皆さんで担当してもらつて、事務局が資料にまとめて、次の審議会で話し合つて、提言としてみんなでまとめる作業をすることになる。だから、「私はあの人の所に行つて、こういうこと聞いてきたい」と言つてもらふのが一番いい。

- ◆ 近年、お寺や僧侶の取り組みにも注目しており、むつ市大畑町にある大安寺の長岡氏の取り組みも、とても興味深いと思つている。お寺で人が集まれたり、生涯学習ができる場所づくりをやつている。まちおこしの「イカす大畑カダル団」というのもやつていて、カフェとかヨガとかやつて、地域の人が集まれるような仕組み作りに取り組んでいる。

- ◆ 大畑町に近い委員はいらつしゃいますが、誰かと2人でいつてもいいと思ふ。旅費は出るのか。

○ 旅費は出る。

- ◆ 芸術・文化活動の側面から、Blueに行きたい。部活動からNPO法人化しようとしている。部活動がエンタメとして、青森から発信できるようになりそうなので。
坂本サトル氏も行きたい。震災時に今自分が持っている力をどうやって人を元気にすることに使えるのか考えた時に、時間がなければ支援物資とかを送るとかだったと思うが、坂本さんは持っている力として、「歌を通して」という支援活動をしていて、さらに今は青森に拠点を置いて活動しているので、青森と音楽の力という話が聞けると思う。
- ◆ 個人的に行ける人であれば、どんどん行ってほしいと思うが、そうでない場合は事務局でアポ取ったり、仲介をしてくれるのか。それとも、あくまで委員が独自に動かなければならないのか。
 - 事務局で取りまとめて、日程調整する。
- ◆ でもよく知っている人こそ、依頼を受けた人から「友達だから来てるんでしょ」と思われたら嫌なので、そうではなくて、県でこういうことをやって、それが青森のためになればということをお願いする形を取ってほしい。
 - お願いの文書も送付する。
- ◆ 八戸のはっちが注目を集めている。防災の避難場所にもなっているし、講座もたくさんやっているの、集約の仕方や、誰がコーディネートしてるのか、聞きに行ってみたい。
- ◆ tecoLLC という会社で、代表の立木さんという方がいらっしゃる。デザイン等の合同会社をされているが、映画祭など、様々なイベントの仕掛けをされている。地域の活性化について、話が聞けると思う。
- ◆ 動機づけを高める理論として、「自己決定理論」というのがある。自己決定性の高い動機づけは長続きする。
無防備の状態から与えられるのは、外発的動機づけという。何らかの講習であったり、何かの外圧であったり、そこに自分自身が価値を見出したとしても、これは外発的動機づけが高まっている状態だと言える。例えば英語の現職教員の研修では、「ぜひ」という強い動機づけの方もいれば、「行って来いと言われた」という弱い動機の方もいらっしゃる。自己決定性には内面から高める内発的動機づけもあり、これには3つある。有能性の欲求、自律性の欲求、関係性の欲求で、これらが自己決定性の内圧を高める重要な要素である。内圧を高めるものとして、自己肯定感や自尊心というものがあるが、自分で何か活動に参加して、影響力を持って、成果を上げている感じになるかどうか、自分で決定して物事が進んでいるかどうかがある。人と関係を作って活動に参加することは、実は、自分でいかに勉強できるかには限界があるものの、他者がいて切磋琢磨することにより動機づけが維持されているということを説明している。
「学び合う」と言っていたが、聞き取りの質問項目として、「有能性がどう満たされているか」とか、あるいは自律性や関係性をカテゴリとして入れてほしいと思う。
- ◆ 資料2を見るとジャンルが書かれているが、農業・食育に関わることなどは、最初の農業経営者のお話に関わるとし、各地域に取り組みをしている団体が増えていると思う。環境保全やエコも、さまざまな取組がある。
NPOの活力が、街づくりのバロメータみたいになっている。企業やNPOの視点

が、生涯学習の中に強く入ってきてほしいと思っている。

「生涯学習」というと、お役所っぽく聞こえるのだが、新しい雰囲気というか、今までの生涯学習ではないものを作るためには、より民間企業だったり、NPOだったりという部分が必要だと思う。

- ◆ 関わりがない人が参加する供給場所になっているのがPTAだという感じをすごく持っている。そこにアプローチしてみるのはいかがでしょうか。そのPTAがどういう現状で、何が問題で、参加者が増えないとかいろいろあるが、PTAを把握したうえでアプローチできること、若しくは支援などして、活動に触れることができる人を広げることができるのはPTA活動だと思う。現状を教えてもらいながら、何か支援できることがあるのかを探る。

すごく頑張っている典型的なところを調査するというのは、手法としてあると思うが、そこは中心的なメンバーがいて活動していて、その人がいないとダメだという所もあると思うし、活動自体を知るのはいいと思うが、広がりがあるかという点については、一般市民が参加できるPTAが一番可能性があると思う。

- ◆ 三沢市は町内会の加入率が60%を切って、低くなっている。市の広報誌を、町内会を通じて届けようとする、半分しか届かない。ケーブルテレビはあるものの、紙媒体としては世帯の半分ぐらいではないか。

団体に加入して活動している人は積極的であり、いろんな人に誘われて学校やPTAにも参加しやすい。しかし、そうでない人は町内会とかに入っていないと、近所付き合いとか地域の一員としてコミュニティがない人というのは、誘われられない可能性がある。

PTAというひとつの切り口もそうだが、住んでる町内会だとか、我々の一番基礎になっているコミュニティの部分がきちんとしていないと、空回りしてしまう、というのを、PTAから発信できるのではないか。

地元子ども会がなくなって、学校と町内会の接点が無くなってしまった。町内会にも入らない人も多い。生涯学習を進めることによって、極端な話、町内会の加入率が上がるかもしれない。学校に出入りする町内の人が増えてきたとか、地域の奉仕活動にPTAの人が出るようになったとか、運動会の仕事に町の人たちが手伝いに来る機会ができるとか、そういう話になっていくのではないか。

私には今、ちょっと思いつかないが、後で事務局には、いわゆる障害を持っている方が、どういう形で生涯学習に絡んでいるか、どういう事業を組み立てて、どれだけの比率があるのかということ調べて、その辺の視点を聞いてみたいと思う。そういう関係の人を紹介してもらいたい。県の人でも、社会教育・生涯学習の実践者でもいいし、ケアマネージャーでもいいので、紹介してほしい。

- PTAも聞き取り対象にしていいか。

- ◆ いいと思う。

- ◆ PTAから社会教育に入った人は、PTA活動がなければ来なかったのではないか。以前からPTA活動には人を集めることが大変だったが、それをやれる人がいて活動してきたのではないか。そういう現状がどうなのかということで、それに対して県でも、この審議会でも、支援などによって活動し続けるお手伝いができる可能性があるのかどうかということ、組織同士として話をする中で、可能性があればもっとPTAに頑張ってもらうことで入口が広がる可能性がある。ここでいう人財育成につなが

ると思う。子どもがいるからPTAに入るといふこともあるが、そこで能力が広がっていくといふことがあると思う。今下北で活動をしている人も、PTAがらみで始めた人がすごく多いと思う。

- ◆ ヒアリングの対象が例として出ているが、商売とも、そうでないとも取れるようなそうでないような場所に人が集まっていたりするところもある。あまり個人的に知っている人の所に行っても、面白くないかもしれない。
- ◆ そういうひとを、他の委員に紹介して行ってもらうのも手である。地元でない人が聞きにったりすると、また違った話が聞けるかもしれない。
- ◆ どうしてもどこか行くことになるのであれば、農業者の方がいいと思っている。ヒヤリングの目的といふか、ゴールの設定によって聞き取り対象もだいぶ変わってくると思う。裾野の広がりといふことを聞くのであればPTAもいいと思うし、そこが窓口であることは間違いないと思う。でも、そこからステップアップしてゴールを目指している人たちを対象として考えるのと、もうある程度拾う種のある人と、2つあると思う。興味関心もあるし、問題意識もあってこそ、その人が成り立っているわけで、どうやって興味関心を引き出したかを聞くのであれば、農業者の方で、今は農業経営しているのだが、なぜ農業経営しながらも地域活動をしているのかを聞けるのではないか。
ゴールは様々で、レベルもそれぞれで、ゴールはそれぞれの人のもので、満足を得られたり達成感を得られたりといふのをゴールとする人もいる。関係性として、人とつながっていると感ずることによって満足感を得られるといふものもある。皆さんがそれぞれの所へ行ってヒアリングすれば、様々な答えが出てきて、多種多様な答えが集まればいいのであれば、行こうと思うところはある。
- ◆ 聞きたいことは委員それぞれあると思うし、調査項目もまだ統一はしていない。委員が聞いてみたいことを聞くやり方でいいと思う。ゴールもその人にとって様々であるから、皆さんが考えるゴールのためにその人はどうしているのとか、あるいは、成功したことばかりではない人の話も聞いてみるといふものも、あると思う。
- 聞き取りの時には、ある程度書き込めるような様式を用いて実施していただくのがよいでしょうし、報告も1～2枚程度は作っていただきたい。そのために事務局で、聞き取りのためのシートと、報告のためのシートを準備します。共通して聞いていただきたい質問項目は何点か上げさせていただいて、後はある程度自由に書き込めるのがいいと思う。
- ◆ 最低これだけは聞かなければならないのは何か。
「どんな学びの機会があったか」は絶対だろう。
「現在の活動を始めるきっかけとなったものはなにか」、
一番下の「人々を学びに向かわせる案はないか」、
その前の「どのような学びの機会があれば良いと思うか」、
この4点については最低限聞くということにして、後は自由にするのはどうか。
- ◆ 地域の活動をしながら、さらに学習することが大事だと思ったかどうか。（学習機会を得た時に、次にもっと学ばなければならないと感じているか）も聞いてはどうか。
- ◆ それはどういう思いでやったのか、継続してきたのか。とか、そういうことも含めて聞いてほしい。

ちなみに、聞き取りの対象者を今の時点で上げるとすれば、男性5、女性3となっており、バランスはいい。

今日は、内的要因の話から聞き取りにうまくつながらなかった所があったと思うが、いずれにしても今日は核心に触れる話しというか、これを積み上げていくと、来年度からの生涯学習の雰囲気はちょっと変わってくるのではないかと、自分たちの、第11期の提言というのは、一つの結果を生むのではないかという思いを、みなさんの話を聞いて、すごく感じた。

ぜひ、聞き取りに行かれた際は、この項目にこだわることなく、少しでも今後の生涯学習に役立つようなことをどんどん聞いていただき、みなさんにも教えていただきたい。それを基に「学びの種を拾う」方策を、皆さんで話し合いたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(3) その他

- 資料3に基づき、今後の予定について説明